

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 9月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1070800204
法人名	有限会社 グループホーム渋川
事業所名	グループホーム渋川の家
所在地	渋川市金井125-4 (電話) 0279-60-6875

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年9月10日

## 【情報提供票より】(平成21年7月29日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成13年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算 8人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨亜鉛メッキ銅版平屋造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費・12,000/月	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	80 円

### (4) 利用者の概要(7月29日現在)

利用者人数	8名	男性	0名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.3歳	最低	74歳	最高	89歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	井口医院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

渋川市郊外の高台、吾妻線が眼下を走る閑静な田園の中に事業所はある。木製の広いベランダを利用してそうめん流しやスイカ割りの行事を開催したり、クリスマス会には保育園児を招待し、入居者と一緒に歌を歌い交流している。また、ボランティアによる踊りや歌謡ショー等のイベントを受け入れ楽しんでいる。入居者の重度化に伴い、医療連携等を充実させる取り組みを行ない、一人ひとりの持っている力を引き出し楽しみながら日々過ごせるように支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を踏まえ、地域の行事に参加するなど交流を深め、また、ホーム通信を回覧板で回し近況等を知らせている。職員教育においては、入居者の尊厳を尊重し、利用者本位を念頭にしたサービスを心がける等、前向きに取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、施設長・管理者・介護支援専門員でまとめ、ケース会議で報告している。今後、自己評価を全職員で取り組み、ケアの振り返りや見直し等による質の確保に活かしていただきたい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、入居者、家族の他に、老人会長・民生委員・氏子総代・区長・市職員等多数の地域の方に参加していただき、入居者の状況、行事報告、外部評価結果等を報告し、意見交換を行っている、地域との係わりの強化やボランティアについて、参加者から「ホーム通信を地域に廻したら」の意見を活かし取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>事業所入り口に、意見箱が設置されている。意見が入らないため、面会時等に要望等を聴いている。職員が、家族から要望や苦情を聞いたとき書き入れる「要望書」を作成している。出された意見は、運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のお祭り等の行事に参加したり、散歩時やホームのベランダから、近隣の方へ挨拶や声をかけてお茶を勧めている。事業所主催のクリスマス会に近隣の保育園児を招待し交流したり、ボランティアによるハーモニカや歌謡ショー等のイベントの受け入れも行っている。また、ホーム通信を発行し、行事案内やボランティア募集などを地域に呼びかけている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、「明るく、楽しく、仲良く、地域の中で安心して、人間らしく暮らし続けるホーム」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員に理念をコピーして渡し、ケース会議の中で話し合い理念を共有している。行事計画作成時にも理念を念頭においた計画を心がけ立案している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者と共に地域の行事(地域ごとの道祖神)や神社のお祭りに出かけている。また、散歩時やホームのベランダから近隣の方へ挨拶を交わしたりお茶を勧めたりしている。近隣の方からは、花木や野菜のお裾分けを頂いている。事業所主催のクリスマス会には近隣の保育園児を招待し、一緒に歌を歌い楽しんでいる。また、ボランティアによるハーモニカ演奏や歌謡ショー等イベントの受け入れやホーム通信を回覧板で廻しホーム紹介やボランティア募集を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者をはじめ全職員が、評価の意義は理解している。自己評価は施設長・管理者・介護支援専門員でまとめ、ケース会議で報告している。前回評価の改善課題の取り組みでは、地域の行事への参加、ホーム通信を回覧板で廻しホームの近況を知らせる等前向きに取り組んでいる。	○	自己評価を全職員で取り組むことにより、日頃のケアの振りかえりや見直し等が可能となることから、職員全員で取り組むことを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族の都合に合わせて開催している。入居者も同席し、老人会長・民生委員・氏子総代・区長・市職員と地域の方を多く呼びかけ、利用状況や行事報告・外部評価結果等の報告を行い、話し合いや意見交換を行っている。地域との係わりの強化やボランティアについて、参加者から「ホーム通信を地域に廻したら」の意見があり、意見を活かし実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の窓口には、ボランティアの呼びかけや事業所の空き情報、スプリンクラー設置についての事業所側の意見を伝える等意見交換を行い、運営に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や利用料支払い時に、行事やドライブの時の写真を見ていただき近況報告をしたり、写真やホーム通信、介護計画を渡している。小遣い程度を持っている入居者や5千円～1万円の預かり金としている入居者がおり、預かり金は台帳管理にて家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に意見箱を設置している。また、「要望書」の用紙を作成し、家族などの来所時に直接意見や苦情等を聞き職員が記入している。出された意見は、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職は、家族には伝えるが入居者には不穏を考慮し話していない。新入職員は、入居者や家族に挨拶をし、3ヶ月間は名札を付け、入居者との馴染みの関係づくり心がけている。また、玄関ホールには、職員の顔写真を掲示している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修・管理者研修や他事業者による研修等に参加し、研修後は報告書を提出し、ケース会議において皆で共有している。事業所では、訪問看護導入によりバルーンカテーテル管理方法の勉強会を行う等施設内研修をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、レベルアップ研修に参加している。他事業所職員との交換研修などにより交流を行い、サービスの質を向上させる取り組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時には、事業所見学を勧めている。また、事前に家庭を訪問し、本人の状況や家族の意見を確認している。入居後は、入居者と馴染めるよう気の合う入居者に近い席にする等配慮している。ケース記録は、入居時の1週間は1時間毎に本人の様子を記録し職員間で共有している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の尊厳を大切に、趣味や昔のことを聞き、絵や絵手紙を書いたり、折り紙をしたり、無理のない食器の片付け、布団干し、うどん作り等を共に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や家族の意見を参考に、日々一緒に過ごす中での会話や表情などから希望や意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意見を聞き、介護日誌や訪問看護師等関係者の意見を聞きながら全職員で検討し、本人や家族共に納得していただける介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケース会議で、3ヶ月毎にモニタリング、見直しを行っている。また、状態に変化が起きた場合は、その都度見直しを行い、家族や関係者の意見を参考に現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	現在、医療処置を受けながら生活をしている入居者の送迎と受診支援、緊急時の受診など生活が継続できるよう支援している。2ヶ月毎の出張理美容サービスの受け入れをしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みの医師の医療を希望している場合は、継続的な医療が受けられるよう家族と相談しながら支援している。事業所の協力医は、月2回の往診を行っており、前日に入居者の身体状況を協力医へFAXで報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に伴い、医療体制の強化の必要性から、病院や訪問看護ステーションとの連携で緊急時対応に努めている。職員は看取りに対して不安があるため、ケース会議において終末期のあり方についての方針を話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉によるプライバシーの侵害にならないよう気をつけるよう管理者は職員に話し、職員同士も注意するようになっている。通信などの写真掲載時においても、家族の了解を得て行っている。記録・個人情報などの管理は事務所で行い、取り扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れは決まっているが、食事を好きな時間に食べる入居者、ベランダで日光浴をする入居者、自室で休む入居者等一人ひとりの状況やペースに合わせ気持ちよく過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣の人からの頂き物の野菜も食材に加え、調理している。食事の準備や片付けを職員と共に、一人ひとりの状況に合わせて無理のないように行っていたいしている。入居者と職員と一緒に食事を楽しむとともに、入居者に障がいがあっても最後まで自力で食べられるよう見守り支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	身体状況や希望に応じた入浴を週2～3回行い、入浴が楽しめるよう季節に応じた柚子湯や菖蒲湯を行っている。入浴拒否の場合は、清拭や足湯を行い、入浴等実施後はカレンダーに実施日を記入し、定期的に入浴ができるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	暮らしの中で、入居者の状況に合わせた簡単な清掃やぞうきん縫いをしたり、花の水やりをしたりしている。また、郵便が届くと自分の係として郵便物を取りに行く入居者もおり、一人ひとりの力にあった役割をもってもらうよう支援している。また、流しそうめんやドライブ等楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画を、担当職員が作成している。個別の外出などは、重度化等により実施していないが、天候に応じて近隣の散歩やベランダで日光浴を楽しんでいる。入居者の介護度が高くなっても、できるだけ戸外に出かけられるよう今年度福祉車両を購入し、下見を行い薬王園やバラ園等に出かけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関先が道路であり、すぐ近くに線路があるため危険防止のため玄関は常時施錠をしている。入居者や家族には説明し、承認いただいている。居室は施錠していないが、身体や精神状況により危険を伴ったり不穏があり、家族の希望で施錠している方もいる。	○	施設長、管理者、職員は、日中鍵をかけることの弊害を話し合い、入居者の安全を確保しつつ、引き続き鍵をかけない支援について検討することを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回(1回は消防署による訓練)の防災訓練を実施しているが、自主訓練において夜間を想定した訓練や地域の方の参加はない。現在、職員緊急連絡網を作成中である。	○	今後、体制の悪い夜間を想定した避難訓練を実施し、災害時に地域住民の協力が得られるための働きかけを運営推進会議等で検討されることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材や献立表は、業者から送られ栄養バランスが記載されている。一人ひとりの状態に応じて、粥、きざみ、とろみ等提供している。また、食事摂取量(栄養補助食品含む)や水分摂取量を記入し、把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間であるホール兼食堂は、ガラス窓から光りが差し込んでいる。ホール兼食堂から段差なく外につながる広いベランダには、日光浴ができる椅子が置いてあり、要所要所に手すりが取り付けられている。壁には、行事や外出時の写真が掲示されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、壁面に地域の人との交換絵手紙を掲示したり、ベットの位置や家具や仏壇等を自由に設置し、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		